



## 「第7回学友交流・帰国報告会」を終えて

国際ロータリー第2510地区 学友委員会

委員長

鈴木 抄織

(札幌大通公園RC)

2023年1月28日(土)、ロイトン札幌を会場にリモートと併用のハイブリッド方式にて、「第7回学友交流・帰国報告会」が開催されました。学友委員の皆様を始め、多くの関係委員会の皆様、米山学友会、財団学友会の皆様にご尽力いただき、無事に終了することができましたことを心より御礼申し上げます。

過去2年間はコロナ禍の影響を受け、活動を延期・休止せざるを得ないプログラムもあり、規模を縮小しての開催でしたが、今年度はようやく全てのロータリー学友(青少年交換、RYLA学友、インターアクト、ローターアクト、米山奨学生、ROTEX、財団奨学生、国際奉仕・VTT)から、総勢12名の皆様に報告してもらうことができました。また報告者だけでなく、現在当地区に留学中の受入青少年交換学生1名、次年度の青少年交換派遣候補生2名、米山記念奨学生3名、多くの学友も参加してくれました。

池田青少年交換委員長より「受入学生にとっては他のプログラムのことを知る機会になり、派遣候補生にとっては、留学に向けて素晴らしい勉強の場となった」、朴米山学友会会長より「コロナ禍で学友会の集まりもできず、留学中の奨学生とも会う機会がなかったので、実際に会えて話ができてよかった」との感想をいただき、学友交流の貴重な機会となったことを嬉しく思っております。従来は、報告会の後に懇親会を行い、お食事をしながら学友同士が語り合い、近況報告をするなど交流を深める場を設けるのですが、今回の開催はかなわず、次回のお楽しみとなります。

会場リアル参加とリモートのハイブリッド方式にしたことでも、多くのメリットがありました。カナダに留学中の青少年交換、水野日菜子さんは、14時間の時差がありながらリモート参加で、現地から報告してくれました。また、地区内の遠方のクラブからも多くの方にご参加いただきました。道外からは日本ロータリー学友会、そして当地区の財団学友で現在第2780地区鎌倉ロータリークラブ会員の鈴木正さんにご参加くださいました。このように、留学生や遠方の多くの方と共有できたことは大変有意義な体験であり、ロータリーの様々なプログラムへのご理解を深めていただくことにつながると思います。次回以降も、より多くの皆様にご参加いただけるよう、周知活動をしてまいります。

今回の報告者の皆さんを含め、ロータリー学友は各プログラムに参加が決定した時点から学友となります。学友会は、ロータリーとのつながりを再構築することを目的に活動しており、ロータリーフェローズと呼ばれる新しい形の学友会が全国的に広がりを見せています。学友委員会は、青少年交換、RYLA学友、インターアクト、ローターアクト、ROTEX、米山奨学生、財団奨学生、VTT学友を対象に、これらの学友とロータリーをつなげる組織としての学友会活動を支援しており、「学友交流・帰国報告会」を毎年開催しております。今回は、財団学友会の鈴木洋史会長が司会の大役を努めてくださり、学友の皆様へ受付業務をお手伝いいただきました。次回以降も学友参加型の会を目指し、学友の交流の場を広げてまいります。

最後になりますが、石丸ガバナー、学友委員の皆様、関係ロータリアン、学友会の皆様、ガバナー事務所寺島様に多大なご協力をいただき、無事に終了することができましたことに深く感謝申し上げます。

